



## 鳥取市総合教育センターだより

第2号 令和4年 7月12日発行

〒680-0053  
鳥取市寺町 150 番地  
TEL: 0857-36-6060  
FAX: 0857-26-3878  
E-mail:  
kyo-center@city.tottori.lg.jp

### 「なぜ」を大切に

所長 安田 直人

サポート体制や整備面等を十分に整える間もなくスタートした GIGA 元年から2年が経ちましたが、各学校では1人1台端末を様々に工夫して活用しておられることと思います。総合教育センターでは、引き続きハード面の整備を進めるとともに、ICT 活用指導力向上研修をはじめとした研修を展開しているところです。また、本年度は業者委託による「GIGA スクール運営支援センター」を開設しました。このことにより、GIGA スクール構想で導入したタブレット端末やネットワーク環境の故障・不具合をはじめ、従前より配備していた教員用校務 PC や大型モニター等の ICT 機器のトラブルや問い合わせ等を一元的に受け付け、迅速な問題解決に努めているところです。(鳥取市立学校の教職員であればどなたでも何度でもフリーダイヤルにて利用できます！)



さて、近年、子どもを取り巻く環境が大きく変わり、いじめ、虐待、貧困、ヤングケアラー等の問題が見えづらくなっています。また、問題の態様や背景が複雑・多様化する中、学校のみでは対応しきれないケースが増加しています。そこで本市では、支援を必要とする児童生徒をより早期かつ確実に見取るため、令和2年度より全小・中・義務教育学校で共通した「スクリーニングシート」を導入しています。更に本年度は、校務支援システム C4th の学籍情報等と同様に、個人情報の蓄積や年度更新により校種間でのデータ移行可能なシステムとして運用開始しました。

以前は一部の教員の経験や勘、感覚に頼っていた気になる児童生徒の識別を、研究データに基づいた項目に沿ってより多くの教職員で多面的・多角的に分析することにより、見過ごしのリスクがより低減されることにつながります。また、従来は、支援の記録は紙媒体によって学校・学年ごとに異なる様式や方法で行われていましたが、同一様式の電子データ管理としたことにより、学級担任が異動したり、児童が小学校から中学校へ進学したりしても、過去に遡って支援状況等を確認することも可能となりました。

ところで、何のためにやるのが明確でなく何となくやっている、いつの間にかやること自体が目的になってしまい、所期の目的が達成されないようなことがあると思います。ICT 機器は、一斉学習や個別学習、協働学習等の様々な学習場面で大変有効ですが、「主体的・対話的で深い学び」につなげ、一人ひとりの資質・能力の向上を図ることが大切です。また、「スクリーニングシート」は、一人ひとりの児童生徒を的確に見取り、必要に応じてケース会議でアセスメントを行い、支援を必要とする子どもを確実に早期支援につなげることが重要な目的です。

今回取り上げたツールやシステムが手段として有効活用され、それぞれの学校の教育目標達成の一助となることを願っています。

今年度は53名の教諭、1名の養護教諭、3名の事務主事を新たに迎え、新年度がスタートして3か月が過ぎました。その間、各学校では校内OJTで初任者をはじめ若手教職員の育成に取り組んでいただいています。

鳥取市では、4月に初任者研修①・新規採用養護教諭研修①を、5月中旬からは初任者訪問を行い初任者の育成支援を行っています。

4月の初任研では、コロナ禍の中、コロナ感染症対策を充実させて集合研修を行いました。県外から来ている者も多い中、顔を合わせてお互いの悩みやアドバイスを共有し合い、横のつながりを広げることができました。初任者訪問では、授業公開・面談を通して授業づくり・学級づくりに関して支援をしています。また、今年度から全ての学校でメンター研修が始まりました。初任者をはじめ若手教職員の今後の成長が楽しみです。

## 初任者研修①



予定していた「中心市街地散策」は、あいにくの雨で実施を見送り、雨の日バージョンで行いました。

安本次長の講義「鳥取市の学校教育について」を聴いた後、初任者同士のネットワークをつくるきっかけとして自己紹介を行いました。その後、小グループでこの1か月間の感想（嬉しかったことや大変だったこと、悩み等）を共有することもでき、つながりが深まりました。

《初任者の声》

- 教師としての基本姿勢や職場内での情報共有への意識について、具体例を基にグループで意見交換し、新たな気づきを得ることができた。また、子どもの言葉の向こうにあるものが何であるか理解しようと努め、子どもとの信頼関係構築を目指すことの重要性が特に印象に残った。
- 「自立×尊敬」という言葉が心に残った。相互に助ける、仕事を引き受ける、声をかける、いたわるということを意識して仕事に取り組んでいきたい。
- 社会人として時間を守る、挨拶するなどのマナーを、当たり前に行えるよう意識したい。また、子どもの言葉から考えられる子どもの様子を考えたり、職員で同じ方向性を向いて仕事を行ったりすることの重要性を学んだ。

## 初任者訪問



初任者研修・新規採用養護教諭研修として「初任者学校訪問」を行いました。採用されて3か月、試行錯誤しながら学習指導・学級経営をされているフレッシュな姿が光っていました。笑顔で子どもたちに接しながら、どうすれば学習内容の理解が深まるかを、日々悩みながら教材研究を行い、授業実践されていました。

また、学級経営においては、集団と個への関わりについて、先輩先生方の助言やアドバイスが初任者の力となっています。今後も校内外の研修を活用しながら、初任者を含む若手教職員育成に向けた取組をお願いします。

《初任者の声「私の強み！」》

- 生徒に寄り添って話を聞けること
- 毎日全員と関わり変化に気付けること
- 外で元気に遊び、児童理解や関係づくりに積極的に取り組んでいること
- 分からないことは小さなことでも聞き、職場の同僚先輩と連携をとること



# スクリーニングシステム ここが活用のポイント！

スクリーニングの目的とは？

児童虐待、いじめ、貧困の問題など表面化しにくい問題の早期発見、早期対応であり、習慣的に行うことで、教員にとっては児童生徒理解が深まり、抱え込みの解消、チーム力の向上につながります。



本市において、スクリーニングシートを活用した問題の未然防止や適切な支援への取組を始めて4年目となりました。本年度はシステムを使って潜在的に支援の必要な児童生徒や家庭をデータに基づいて迅速に識別し、そのデータを基に校内で会議を開いて支援につなげていただいているところだと思います。そこで、スクリーニングをより効果的に活用していただくために、活用する際の3つのポイントを確認します。

年	組	番	氏名					AI		A	B	C	備考	
										教職員の関与	地域資源の活用	専門機関の活用		
								①AI 判定	②支援の方向性					
③活用のサイクル														

## AI 判定

1

合計点に関係なく AI 判定にチェックが付きます。AIは何を基準に判定しているのでしょうか？

AI 判定は、これまで大阪公立大学に集められたデータをもとに、項目数よりもどの項目にチェックが入っているかに基づいています。そのため、項目数の合計が少なくても AI 判定にチェックがつく場合があります。これまでの教職員の見立てと AI 判定を総合的にとらえ、校内チーム会議（ケース会議）に挙げることも含めて検討する材料にしてください。

## 支援の方向性

2

毎回、同じ子どもの同じ項目にチェック付き、なかなか改善が見られません。

複数の教職員が現状を入力した後、個別のアセスメントをし、支援の方向性を決めて実践することが重要です。支援の方向性を決める際にはスクリーニングシートの支援の現状を御活用ください。「A 教職員の関与」「B 地域資源の活用」「C 専門機関の活用」の3つ項目があります。「だれが、だれに、どのような働きかけを行って、どのような取組を行ってもらうのか」を明確にし、教職員が共有した上での共通の支援をお願いします。なお「C 専門機関の活用」については、鳥取市版「支援の方向性の具体例」を参考にさせていただいたり、SSW に尋ねたりしてください。

## 活用のサイクル

3

効果的な活用をするための使い方について教えてください。

スクリーニングシートを活用して具体的な支援につなげたら、その支援が適切だったかを評価し、支援を見直す必要があります。スクリーニングを効果的に機能させるために次のようなサイクル構築をお願いします。

①シート入力 → ②スクリーニング会議 → ③校内チーム会議（ケース会議）  
→④校内等での見守り・支援、関係機関へのつなぎ等 → ⑤評価